

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600466		
法人名	社会福祉法人 慧誠会		
事業所名	帯広けいせい苑グループホーム りんごの木		
所在地	帯広市新町西6丁目55		
自己評価作成日	令和 3年2月8日	評価結果市町村受理日	令和 3年 4月 22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0194600466-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0194600466-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和3年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度はコロナウイルスの関係もあり、通院すらままならない状況ではありました。その中で、その人一人一人にあった生活というものを考えながら、支援させて頂いております。ゴルフが好きな方にはバターゴルフ、野球が好きな方とのキャッチボール、歌とお風呂が好きな方にはお風呂で音楽を聴くなど、その方が喜べる一瞬を一緒に共有できたと思います。  
その他には、災害対策として、避難場所への避難訓練を行いました。利用者様が、車に乗るところから始まり、避難場所へ行き下りるところまで行い、利用者様への対応などを確認する事が出来ました。  
コロナの中で我慢の多い一年でしたが、職員・利用者様が大きな病気などもなく、元気に過ごせたことの良かったと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はJR帯広駅に近い新興住宅地にあり、近くの帯広川河川敷の堤防には桜や木々の緑を楽しめる地域の散歩コースになっている。母体法人は帯広市を拠点として児童施設から福祉施設等を運営しており、職員指導や教育も行き届き、福祉施設の連携で質の高いケアに努めている。木造平屋建ての事業所は全居室東南向きで明るく、共用空間は清潔で、温度・湿度も適正に管理されている。コロナ禍により、定期的な換気や直接接触個所のアルコール消毒と、感染症予防対策を施している。共用空間の壁には季節感ある飾りがあり家庭的な雰囲気を醸し出している。利用者の表情は明るく穏やかであり、日々の共同生活の楽しさが滲み出ているが、コロナ禍で中で利用者の希望や要望を聞き出しながら事業所内で可能な小さなイベントを職員が考え、利用者のストレス解消や日々の楽しみが提供できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をもとに年度計画をたて、利用者・ご家族の為に職員同士が日々考え、実行しより良い生活が送れるように実践している。	事業所理念は玄関に掲げている。職員は、研修会やミーティング等で理念を理解し、利用者のサービスに反映させている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	利用者との散歩中に、挨拶をさせて頂いたりして少ない時間ではあるが、交流を図っている。	町内会に加入しており、町内会の行事に参加したり、日常的に散歩して近隣住民との挨拶を交わし交流していたが、コロナ禍により外出自粛になっている。町内の回覧に事業所の情報などを廻したりして、地域住民とかかわりを積極的に取り組んでいく。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍でなかなか地域貢献できていない現状はあるが、入居の申し込みや、相談などでお話させて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナで顔を合わせての開催は出来ていないのが現状ではあるが、書面にて利用者のご様子、コロナの対応などを情報として送らせて頂いている。	コロナ禍の為、運営推進会議の代わりに参加者全員に書面会議として2ヶ月に1回開催している。利用状況や活動内容報告等の報告書を送付し意見や要望を得て、運営に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は、実地指導が有り市の方ともお話しする機会が持てた。	市担当者とは、事業所の実情やケアサービスの取り組みを電話でやり取りしながら、協力関係を築くように取り組んでいる。生活保護受給者の相談や助言を受けながら、スムーズな対応ができるよう協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状身体拘束はないです。その他には不適切ケアというところは、職員同士が気に掛けあいながら日々行っております。	身体拘束適正化委員会は2ヶ月毎に実施しており、身体拘束の弊害や具体的禁止行為、身体拘束については拘束による弊害も含めて正しい知識を全職員が身に付けており、常に拘束のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人でのオンライン研修に参加させて頂いた。日々の中で不適切ケアが無いように職員同士で確認しあっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている方が、6月までの利用で詳しく学ぶ場は無かったのが現状ではあるが、今後に備えての学習は行えたらよいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、時間をかけて、ご家族とお話ししながら行い、不明点はその都度ご理解を得ながら契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は、コロナ禍での面会に関してお話する場面が多くあった。その都度、現状をお話させて頂き、ご理解いただいている。	管理者や職員は利用者や日々の会話から意見や要望を聴いている他、家族等からは来訪時や電話などで意見等を聴くように努めている。コロナ禍の為に家族の面会制限を設けており、事前連絡をもらって窓越しの面会や家族からの意見も得るよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度初めに今年度頑張りたい事を書面に書いて頂いたり、今年度の振り返り等も書面に残している。	管理者と職員は会議や個別に意見や要望を聴きし、働きやすい職場作りや運営に反映させている。年1回の個人面談では意見・要望を聞く機会を心がけ、ストレスや不満の解消に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の考えは良く聞くようにしている。どんなことを思って仕事をしているのか、利用者の事をどのように考えているのかなど。又、有給などもとりやすい環境ではないかと思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	数は少ないが、コロナの研修などに職員を参加させて学ぶ場を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、他施設との交流は無かったが、機会があれば参加したいという職員もいるので、機会をさがしていきたいと思っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に本人とお話し、ここで何に重点を置きながら生活をして頂くかを話の中で考え職員同士で共有していく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、家や以前の生活をの様子を聞き、本人や家族の思いを聞くことに重点を置いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に、家や以前の生活をの様子を聞き、本人や家族の思いを聞くことに重点を置いている。今後の考えられることは、お話しし理解を得て頂くように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で利用者が出来ることは、一緒に行い、暮らしを共有し尊重しあっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の変化などが見られる時には、ご報告し、以前の暮らしでどうだったかなど情報共有している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中の為、行きたい場所に行けなかったのはありますが、その中でも、車で見学に行ったり、インターネットで情報を出したりして支援を行いました。	コロナ禍の為に来訪者の面談や外出支援は自粛しているが、馴染みの場所の思い出をインターネット検索から引き出したり、ミニドライブで馴染みの場所を車窓から見学したりするなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の話が楽しくなるように、職員が間に入りながら支援を行いました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	直接本人へのフォローは出来てはいないが、関係各所への情報提供は行わせて頂いた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で、食べたいもの、行きたいところ、やりたい事、知りたい事を聞き、コロナで出来ない事はあるが、出来る範囲で希望に添えたと思う。	日々の利用者との会話や家族からの希望や意向の把握に努めている。担当者は会議の話し合いの中で、気づいたこと、知った情報を職員間で共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活歴からお仕事の話をしたり、趣味の話をしたりして、本人の言葉を沢山聞けるように関わりを持っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日によって出来ることも変わってくる中で、その状況を見極め現状に合ったかわりを持つように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今年度は、毎月モニタリングを使用し、毎月の変化なども確認して行っている	利用者と家族の意見や要望を基に、月1回モニタリングを行い、介護計画は6ヶ月毎に見直しを行っており、家族の確認印を得ている。また、利用者の状況の変化に応じて、随時介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の中で職員が利用者とのように接して利用者がどのような反応をしているのかも確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内で様々な職種が存在する為、他職種連携が行えていると思う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は、やりたいことも出来ないような状況ではあったが、来年の為に様々な情報を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院もままならない状況ではあるが、様子の変化などは、本人が行かなくても職員が伝えて医師と情報共有している。	今までのかかりつけ医との受診は継続している。受診には家族同行だが、職員が同行する場合もある。定期的な精神科、歯科の受診は訪問診療とし適切な医療を受けることができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護職員が出勤してくれるので、その時に相談を主にしている。勤務でない日も、何かあったときには相談したりもしている。又、他事業所の看護職員に相談等の行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、利用者の方が生活しやすいように情報は細かく行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	新しく入居された方には、重要事項説明書の中の重度化指針の説明をさせて頂いている。その中で、ここでの生活の限界などをお話ししながら納得して頂いている。	重度化や終末期については入居時に利用者や家族へグループホームで出来る事、できない事など具体的に説明し、対応指針に同意を得ている。重度化した場合は、看取りや法人内の施設への転所等についての支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は、コロナもあり、そういった研修等に職員がさんかさせて頂いた。 応急手当などは全職員が行っていると思う。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は実際に、避難を想定し、乗り込みから芽室けいせい苑まで避難し、帰るまでを行ったので、そこから見た物を活かしていきたい。	コロナ禍の為に消防署職員の立ち合いはないが、年2回の自主避難訓練を実施している。隣接している帯広川の氾濫を想定して、車両を使い法人内の避難場所へ避難する訓練を行った。	コロナ禍により感染症予防対策に翻弄された中、目標達成計画に着手できなかった。よって、今回も水害や地震等の複合災害を想定した避難訓練や避難経路、緊急連絡網等を含めた災害マニュアルの見直しを期待する。また、備蓄品や備品の再見直しも期待する。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間でも気に掛けながら対応させて頂いております。	言葉掛けは、利用者の生活歴や個性を尊重して関わっており、同じ目線に立ちプライドを損ねないケアを心がけている。個人情報の取り扱い、プライバシーの確保に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つ一つの行動で本人に選んでいただいたりするような声掛けを意識して行っております。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、その時の本人の状態や様子で、支援を考えながら対応させて頂いている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりなども生活していくと見えてくるのでそういったところも気に掛けている。			

帯広けいせい苑グループホーム りんごの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食の楽しみはもちろん。どうやったら食べやすいかなど一人一人が喜びを得るように支援させて頂いた。	献立や食材は業者に委託し、栄養バランスに配慮した食事提供を行っている。入居者の能力に応じながら、食事の準備から片付けまで協働で行っている。利用者の希望を聞きながら誕生食や季節食に合わせた献立を変更しながら、食事の楽しみを支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段の食事は基より、行事や季節なども考え本人の求めている事を考えながら支援させて頂いた。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは自分で出来る方は行って頂き、磨き残しなどがある方は、職員で仕上げ磨きを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人にあったパットやパンツの検討、排泄パターンの把握により、失禁等がない様なトイレ誘導を行う様になっている	トイレでの排泄を心掛け、排泄チェック表から個々の排泄パターンや声掛けのタイミングなどを把握し、トイレ誘導をしている。また、希望により自室にポータブルトイレを設置している利用者もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や運動を心がけなるべく自然排便を心掛けているが。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	楽しい入浴を心がけ支援している。又、身体の観察も行い皮膚トラブルなども確認する様心掛けている。	入浴は週に2回は入れるよう支援している。体調や気分によって変更もしている。音楽を聞きながら入浴したり、好きな歌を歌ったり楽しい時間になるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地よく眠れるように日中の活動も意識している。又、夜間の入眠状況なども見て、昼寝なども行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院記録や薬情を確認して、低さ用なども気に掛けながら支援させて頂いている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることは継続し、出来ないことでも挑戦し、どこまでならでき、そこからどう満足して頂くかを考え支援しております。			

帯広けいせい苑グループホーム りんごの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はご希望に沿う外出支援は難しかった。が散歩などの活動は行えた。	コロナ禍であり、外出支援は自粛しているが、利用者のストレスを少しでも解消するため、事業所周辺の散歩や感染症予防をしながら馴染みの床屋へ行く等の外出支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に連絡し、承認を得て使用させて頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の思いで、電話などは出来る様にしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	限られたスペースではあるが、安全かつ他者との交流が持ちやすいように工夫している。	コロナ禍により、温度・湿度管理や定期的な換気、直接接触する箇所へのアルコール消毒するなどして、常に健康と安全に配慮しながら居心地が良いように配慮している。調理室や事務室からは利用者の動向が見取れるような配置になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースではあるが、安全かつ他者との交流が持ちやすいように工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・ご家族と相談し、使い慣れたものを持ってきていただいたり、写真を持ってきていただいて支援を行っている。	居室には洗面台は設置されており、利用者と家族はタンスや家族写真を持参し使い慣れた物や好みのものを飾っている。利用者の身体状況の変化に合わせた配置について、家族と一緒に相談しながら現状に合わせた空間作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の目線なども考え、見やすく、安全に生活できるように支援している。			